

ケンペル・バーニー祭

春が箱根の丘や谷を豊かな新緑の色合いに変える毎年4月に、この地域の自然の美しさをより多くの人々に伝える上で大きな役割を果たした2人のヨーロッパ人を偲ぶために、地元の保存活動家が集まります。エンゲルベルト・ケンペル（1651年-1716年）は、ドイツの博物学者・医師で、オランダ東インド会社の医師として1690年に来日しました。ケンペルは当時唯一ヨーロッパ船に開港していた長崎から江戸（現在の東京）へ旅し、1691年と1692年に旅の途中で箱根を通りました。死後「日本誌」というタイトルで出版された彼のメモの中で、ケンペルは箱根の風景の美しさを称えました。200年以上が経ち、彼が書き残したものは、オーストラリア人商人で1918年に箱根に第2の家を購入し、余暇のほとんどをここの素晴らしいアウトドアを楽しんで過ごしたシリル・モンタギュー・バーニー（1868-1958）を感動させました。退職後に永住しようとしたこの地区に引っ越し、第二次世界大戦の勃発後に逮捕され、最終的に国外退去になるまでここに住んだ活発な保存活動家のバーニーは、ケンペルの言葉を利用して、産業発展から箱根の環境を守るよう呼びかけました。1986

年以降毎年開催されているケンペル・バーニー祭は主に、一般的に2人の功績

と保存活動をテーマにした講演会（日本語のみ）から成ります。